

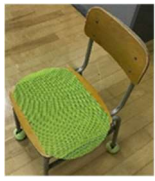
し え ん 便 い

みくまの支援学校支援部

取組報告～巡回相談から～

本校コーディネーターが保育所、幼稚園、学校を訪問して相談を行っています。1学期は保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校から17件の相談がありました。主な相談内容としては、行動面について（姿勢保持、大勢の中での集中のしづらさ、友だちとの関わりなど）、学習面について（授業の手立て、授業と休憩時間の切り替え、漢字の定着など）、教育課程について（自立活動の内容など）があげられ、多岐にわたりました。今回はその中から「姿勢保持」についてお伝えしたいと思います。

姿勢保持の難しさの原因には、体幹の筋力の弱さなどが考えられます。体幹の筋力の弱い子供は他の筋肉を使って体幹の筋力を補おうとするため、長い時間まっすぐ座っていると疲れてしまいます。また、楽な姿勢を取ろうとしてもじもじ動いたり、前かがみになったり、机や椅子にもたれたりすることで、身体をまっすぐ保とうとします。このような子供たちには「姿勢を良くしなさい」と言うだけでは、なかなか学習しやすい姿勢を保持することができません。また姿勢の保持が難しくなると、腕や手を動かすときに身体が安定しないので、はさみや鉛筆を使うことがうまくできないことがあります。さらに、子供の注意力や視覚のコントロールにも影響を与えることがあります。



体幹の筋力を鍛えるための運動（しこ踏みやスロースクワットなど）に取り組んだり補助具を使ったりして、学習しやすい姿勢を保持する支援が必要です。補助具には、身体が滑り落ちないようにするために椅子に敷く滑り止めシートや、姿勢の崩れを自分で意識できるようにするための足形などがあります。また腕や手を動かすときに身体が安定しない場合は、肘をつき身体を安定させてはさみ等を使うなどの工夫があります。

クラスでまっすぐ座れない子供も、実は身体を支えて学習するために一生懸命なのかもしれませんね。

取組報告～コーディネーター等連絡協議会～

8月9日（木）に本校でコーディネーター等連絡協議会を開催しました。本校より「つなぎ愛シート」の目的や合理的配慮についての説明をした後、各学校における「つなぎ愛シート」の活用状況について情報交換を行いました。合理的配慮について、小学校では「学習活動を分かりやすいように掲示する」「デジタル教材の活用」などが挙げられました。中学校では「定期テストでの配慮事項を記入している」という報告がありました。また合理的配慮の記入については「行っている配慮が3観点11項目のどこに当てはまるかが分かりにくい」などの難しさが挙げられました。



先般、学校教育法施行規則の改正により、小学校・中学校の特別支援学級などにおいて個別の教育支援計画「つなぎ愛シート」作成が義務化されました。今回話し合ったことをもとに児童生徒にとってよりよい支援を探り、乳幼児期から学校卒業後まで必要な教育的支援をつなぐツールとして「つなぎ愛シート」を活用していければと思います。

最後になりましたが、お忙しい中参加してくださった先生方、ありがとうございました。

取組報告～県特研夏季研修会～

8月10日（金）に平成30年度和歌山県特別支援教育研究会夏季研修会が田辺市の和歌山県情報交流センターBig Uにおいて開かれました。午後からの分科会では本校コーディネーターが「共に考え学び合う みくまの支援学校のセンター的機能～各学校と学び合う『相互往還』の取組～」という主題で提案しました。いただいたご意見を活かして、より充実した実践につなげていきたいと考えています。提案内容については、みくまの支援学校までお問い合わせください。



取組報告～コーディネーター研修～

串本小学校 LD 等通級指導教室の坪野先生を講師に招き、「文字と数の学習について」と題し、校内で特別支援教育コーディネーター研修会を開催しました。講義では、たくさんの教材を実際に紹介していただきながら実践に沿ったお話を聴かせていただきました。

たとえば、数の学習では「1と4で5」「5は2と3」といった数の合成・分解を取り扱います。写真1は、5本のストローを束ねたもので、ストローを折り曲げ「1と4で5」と言葉でも唱えながら学習することで、数の合成・分解の定着を図るという教材です。また写真2は、文字の学習で、枠にバランスよく文字を書くために、文字の大きさに合わせた枠で文字を囲むプリント教材です。このように、実践事例を交えながらたくさんの教材と学習方法を紹介していただきました。

研修を通して、私たち教師が一人ひとりの困難さの違いに気付くという実態把握の大切さと、子供達が「できた・分かった」という経験をすることの大切さを改めて学ぶことができました。



写真1



写真2